



かつて元気だった「まち」には、映画館がありました…
「映画」というツールで、市民のみなさまには、プロのスタッフたちと苦楽を共にしていただいています。
まちの合併はココロの合併から…願いを込めて…

総合プロデューサー 越後啓子



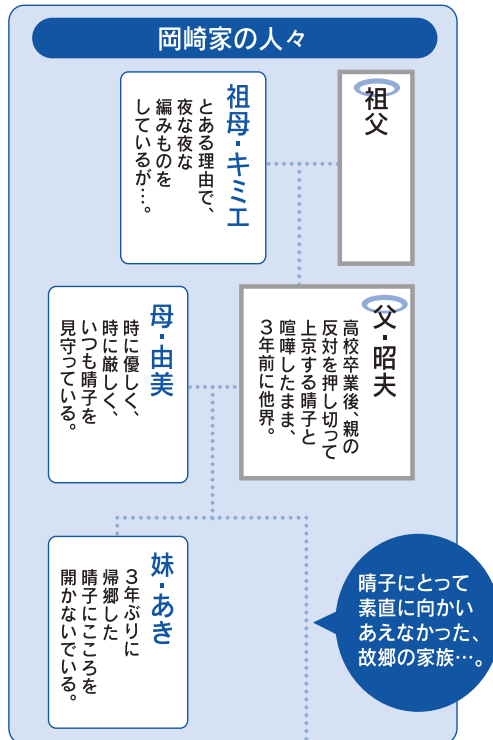
100年たっても色あせない映画が今、ウマレル…。
やってきたことは泥臭いかもかもしれない——西条市に来てから早3ヶ月、ずっと走り続けてきた気がする。「このまちで、この人達と素敵な映画を創りたい…」、その「思い」しかなかった。僕らの中で、いつ頃からそんな思いがうまれたんだろうか。はじめはシナリオも、何もなく…ほとんど誰もいなかった。走り出したら、いつのまにか夢中になっていた。映画には夢がある…。ここで知り合った多くの仲間たちの夢をのせて走り続けてきた。真剣になればなるほど、単に笑ってばかりはいられない。泣いて笑って怒って、ともに闘ってきたんだ。僕らみんなの映画「恋まち物語」には全部ひっくるめて、そんな思いが焼きついている。不思議なチカラが、スクリーンの向こうから届く瞬間が、まもなく訪れるはずだ。創っている最中から、映画に、そしてこのまちに恋をしていたのかもしれない。100年たっても色あせない素敵なラブストーリーが今、うまれる。「みんなありがとう、これからもよろしくです！」 監督 林 弘樹



全ては未来のために——私の心構えは、その一言に尽きます。合併も、映画作りも、全ては未来のためにあるモノだと信じています。～運命より、大事なものがある…～「恋まち物語」のキャッチフレーズも、そこから生まれました。きっと、見上げる青空は誰も分け隔てることのない「自由な心」。西条市のみなで、あの青空を見上げて、笑顔で未来への一歩をふみだそうよ!!そんな想いを込めて、筆を進めました。西条市での様々な出会いが、この物語を生んだのです。まちのみなが、優しい風景と柔らかな風が、織り交ざり紡ぎ出したストーリー…。全ては未来のために——明日を作る、みんなの笑顔のために—いつまでも色褪せることのない「まちの宝物」が今、産声を上げようとしています。 脚本家 栗山宗大



◆ 関連図 ◆



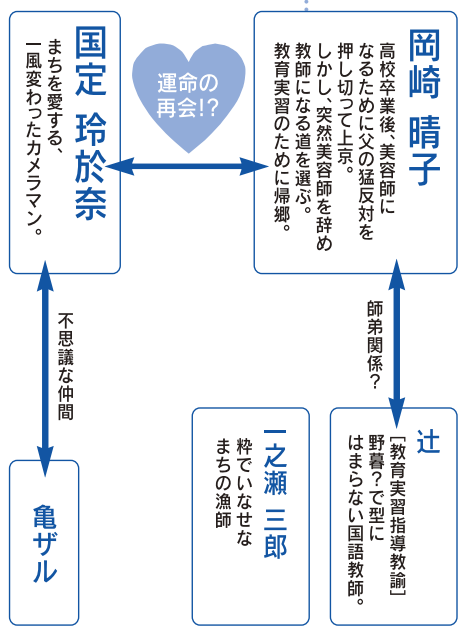
6/4(土) キャスト公開オーディション

応募総数約300名 厳しい一次審査を通過した120名の方が二次審査を受けました。



6/18(土)～6/27(月) 西条ロケ

西条のあちこちで撮影をしました。プロの俳優さんや映画のスタッフに混じって、オーディションに受かった市民の俳優さんたち、エキストラ、ボランティアスタッフも大活躍!!



今後の予定

- 7/23(土) テレビ愛媛ドキュメンタリー番組「恋まち物語」オンエア
- 7/31(日) 上映会 <さいじょうフェスティバル2005>